

村半利活用検討会（令和7年度第1回）結果報告

日時 令和7年7月14日（月） 16時～17時10分

場所 村半 大会議室

出席者 検討会メンバー6名、事務局（総合政策部総合政策課）4名

内容

1 協議事項

(1) 利用状況等について

- ・令和7年3月～6月の利用状況や占用利用実績等について説明
- ・今後の占用受付について

2 報告事項

(1) 高山市若者活動支援の取組みについて

(2) 村半かわら版の発行について

<意見交換、質疑> メ:構成メンバー、事:事務局

メ:中学生のごみ問題への対応についてもう少し教えてほしい。

事:過去にごみを置いていたり部屋を散らかしたままにすることがあった中学生のグループについては使用後にチェックをするようにしている。中学生が帰るときに待ってもらい、スタッフが部屋を確認した上で元の状態に戻したうえで帰ってもらうようにしているが、帰るタイミングを逃すこともある。根気よく対応している。

メ:他の中学生も同じようなことはあるか？

事:全体的に高校生と比べて中学生は少し違うように思う。やんちゃな感じがある。中学生については気を付けてみている。

メ:高校生になると育っていくが、年齢的に反抗したいばかりの時だと思う。ただ、目に余るようであれば、1ヶ月利用停止のような措置があっても良いかもしれない。世間はそういうものでないということもわかってもらうことも良いと思う。彼らは他の子に「こんなことができた」と話すため、びしっということも必要だと思う。禁止にするのではなく、ある程度の期間停止などの措置が良いと思う。

事:中学生の女の子で最近多目的トイレにごみを置いていく姿が見られたため、本人たちに「あなたたちのごみじゃない？」と聞くと認めなかった。話しかけても無視されることもあり、男子よりも女子の方が対応が難しく感じる時がある。

メ:他の施設で男子中学生が女性職員の服をつかんで女性職員がとても怖い思いをしたケースがある。そういったこともあるので気を付けて対応してほしい。また学校に相談することも良いと思う。

メ:利用停止をするにしても警告してからの方が良いと思う。まだ何かあるようであれば学校や保護者に話すのも一つの手だと思う。むしろ学校よりも保護者に責任があると思う。

事:以前、学校の先生から特定の生徒さんが村半に来ていないか電話で問い合わせがあった。そのときは探している子は村半にいなかったが、そのように学校からの問い合わせもある。今後同じように学生の所在についての問い合わせがあったときの対応についてスタッフ間で話し合い、一旦電

話を切って折り返し学校に電話をするなど慎重に対応していくことを決めた。

メ:それは学校の時間内だったか？

事:放課後の時間だった。

事:引き続き利用者への目配りと声掛けはしていきたい。ひどくなっていくようであれば学校への相談も考えたい。また、スタッフの目の届くところで利用してもらうといった場所の制限も一つの方法だと考えている。期間限定の利用制限も場合によっては検討していきたいと思う。

メ:各蔵に防犯カメラは設置しているか？

事:部屋には設置していない。不審者の出入りを確認するために入口と通路に設置している。

メ:事件があったときに見ることができる防犯カメラを地域の道路に設置したいと思っているが難しい。警察から防犯カメラが設置されていないか尋ねられたこともある。なぜ設置できないのか疑問である。

メ:個人の都合で自分を守るために設置したものについて問い合わせがあったという意味ではないか。

メ:地域で設置したカメラに対する警察の助成制度も以前はあったと思う。防犯の意味でも外にあると良いと思う。他の施設でも同じようなことがあると思う。

メ:文化会館は敷地内に4つカメラがある。

メ:まちの博物館も敷地内にカメラがある。

メ:下商店街の通りに4つほどカメラを設置している。予想できないことがあるので組合員にも納得してもらい設置した。

事:プライバシーの問題もあるが、村半は公共のスペースであるため、蔵の中であっても原則公共の利用になる。構造上仕切られた空間にはプライバシーが発生してしまう。スタッフは引き続き定期的に見回りをしていきたい。

メ:八幡神社にもすべての部屋にカメラが設置されている。

メ:村半の各蔵と多目的トイレには非常用のスタッフ緊急呼び出しボタンを設置している。何か怖いことがあったときはこれを押すことになっている。

メ:屋台蔵の横の駐車場にたばこの吸い殻が落ちていたことがあり、村半に出入りしていた大人の方がたばこを吸っているのを見たことがある。吸い殻を捨てるのは村半の利用者だけではないと思うし、ここだけの問題ではなくて市全体の問題でもあると思う。上一之町の駐車場にも落ちていて、いろんなところでこういった話を聞く。路上での喫煙は規制されているが、規制があるがゆえに道路以外のところでこういったことが起きるのかもしれないが、そういったことを知っておいてほしい。

事:利用者が村半の出入口の外でたばこを吸っていたため注意をしたところ怒られたことがある。

メ:道路以外の場所ならば、他人の駐車場であっても吸うこと自体は法的には問題はないということか。

メ:観光客への周知は難しい面もあるし、吸い殻を持って帰ってくれば良いのだが捨ててあるという現状。解決策がわからない。

メ:市で見回りをしていたことがあったかと思うが、今は回っていないように思う。定期的に見回りするだけでも違うのではないか。

事:生活環境、消防、都市計画の部署に情報を共有する。

メ:文書で出しても伝わらないので、人を配置するのは大変だと思うが、ポイ捨て禁止と書いたものなどを持ちながら歩くだけでも効果はあると思う。

メ:関係人口に関して市は取り組んでいるか。

メ:いかに高山に来てもらえるかという施策は、様々な課がそれぞれの分野で取り組んでいる。移住

してもらうことが一番良いのかもしれないが、そこまではなかなか至らないため、交流人口や関係人口を増やすことも重要な施策であると考えている。

メ:村半の使い方の中には、そのようなことが期待できると思うことがあって、お囃子の練習のときに聞きたいといって見学された方がいた。春も秋も何回か高山祭に来ていてその方は言っていたため、そういった方に高山市の中で何か協力してもらえることがあるのではないかと考えた。

メ:村半を学生時代に利用してくれた子が大学に行ってから帰省のときに友達を連れて村半に来てくれる。また、市外に就職してからも村半に立ち寄ってくれることがある。そういった受け皿のような施設であるところは関係人口のつながりをつくっている一つだと思う。

メ:高山に旅行などで来た方が高山を好きになることがある。例えば祭に参加したいという方もいると聞いているし、高山に移住したいがどこに移住しても祭に参加することができるのかと質問された方も中にはみえたと聞いた。そういった方とうまくつなぐことができればまちの保存などにつながっていくのではないかと考えた。ただ、祭はそれぞれの組ごとのやり方があるので受入れが難しいところもあると思う。

メ:35歳未満の方への支援はいくつかあるが、対象年齢を40歳、45歳に拡大すると良いのではと思う。そういった方が移住してくだされば様々な面で戦力になると思う。

事:高山市では若者の定義を35歳までとしている。給与水準が低いところへの支援という意味合いがあるからだと思う。第九次総合計画の策定の際には、地元の子が市外に出ても何かしらの形で高山に関わることができたり、やがて帰ってくることができるといったところに力を入れるべきではないかという意見を市民のみなさんから非常に多くいただいた。そういったところも充実していきたいと思っている。特に小中学校の頃から地元を知ることができる取り組みを増やしていきたいと思っている。自然環境、文化、事業など様々な魅力があることを知る機会をつくっていききたいと考えている。

メ:フルタイムスタッフについて、当初からのスタッフが一人残っているが、利用事例やSNSをみるとその方の業務の範疇を超えた利用者との関わりがあるからこそ、大学生になっても帰省した時に顔を見せに来てくれるといったことがあるのではないかと考えた。その人の人柄もあるかもしれないが、そういった活躍に見合った待遇を提供できているのかを考えなければならないと思う。民間であれば給与を上げてでも残ってほしいくらいの人材だと思う。また、個人の人柄や能力に頼りすぎている組織運営についても、人が変わっていくことはあるので検討しなければならないと思う。市の考えや開所当初からスタッフが変ったことによる変化があれば教えてほしい。

事:利用者が増えている点、また大学生になっても帰ってきてくれる学生が大勢いるといったそれらの要因としてスタッフの力が非常に大きいと思っている。聞き取り、見守り、声掛けがとても上手だが、それらの能力に対して評価ができていないかもしれない。給与は数年前に見直したが満足な待遇にはなっていないかもしれない。フルスタッフは現在3人いるが全員が当初からのスタッフと同じような対応はできないため、学生や利用者との関わり方などについて、月1回のミーティングなどにより全員で一緒に考える時間を作っている。今いるメンバーで若者とどんな関わりをしていくと良いかといったことを今後も絶えず一緒に考えながら向上心を持って取り組んでいきたいと思う。

メ:素晴らしい人材にはなかなか出会えないと思う。そういう意味では今いるスタッフを大事にしてほしい。

以上